

家庭教育支援協会

会報誌 第6号

16秒差

二川 早苗

家庭教育支援協会 理事長・日本家庭教育学会常任理事



年を取るのが早いと感じるようになった。小学生の頃には、早く中学生にならないかなと思ひ、中学生になると高校生になりたいと願ひ、大学に入ると早く自立したいと切望し、社会に出ると、さらなる欲望が去来した。欲望は、常に更新されて私について回った。自分の欲望を追い駆けているうちは、時がひどく冗長に感じ、人生が永遠であるかのように思えた。

時間が欲しいと切実に願ったのは、子育てが始まってからだ。誰かのために使う時間の重みに押し潰されそうだった。同時にそれは、残された時間に限りがあることに自覚的になったときと符合する。

時が早くなった。

家庭は確かに心安らぐ場所であってほしいし、誰にとってもそのような場が必要なのはいうまでもない。しかし、そこから逃れたいという願望があることも認めたい。退出の自由がなければ、「監獄」となる。

再び、時間の話。

秋葉原の地下30メートルの深さにつくばエクスプレスの駅があり、そこに2本のエスカレーターがある。1本は通常速度、もう1本は「高速」。「高速」は乗った瞬間、がくんと後ろに引っ張られるような感じになるが、あとは快適だ。隣は分速30メートル。「高速」は分速45メートルである。10メートル上の改札階までの所要時間は、隣は48秒。「高速」は32秒。

その差、僅かに16秒。

「高速」を使うようになり、右側を駆け上がらなくなった。わずかに16秒差のために私は急いでいたのだ。上へ上へと着いた先にあるのは、もっと速い何かだろうか。それとも、早送りの景色についていけなくなった私だったろうか。

時代の閉塞感を破るのは、いつも僅かな行動の変容からだ。16秒が変える世界は、人々に本来の落ち着きと安全の保障を取り戻す契機となるかもしれない。その変容への道行きの萌芽は家庭でこそ育まれるだろう。なぜならすべてを基礎づける人間性は家庭で育まれるのであり、そこに家庭教育の真髓が在るだろうから。

今年度に行われた活動についてご報告申し上げます。

平成25年度 家庭教育支援協会 下半期活動報告

自 平成 25 年 10 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日

年月	日	事業内容	場所
10	18	第5回家庭教育の講演会 研修会テーマ「人間性を育てるほめ方・叱り方」 講師：和田みゆき	(社)全国育児介護福祉協議会
	30	公開講座 講師 家庭教育アドバイザー 八木由紀	八洲学園大学
11	9	公開講座 講師 家庭教育アドバイザー 青山利江	
	16	公開講座 講師 家庭教育アドバイザー 青山利江	
	30	公開講座 講師 家庭教育アドバイザー 八木由紀 公開講座 講師 家庭教育アドバイザー 和田みゆき	
12	7	公開講座 講師 家庭教育アドバイザー 和田みゆき	
2014 1	22	講師派遣 かながわコミュニティカレッジ連携講座 日本セラピスト育成協会統括講師 岩田一夫	かながわ 県民活動サポートセンター
	29	講師派遣 協会会員 中島佳世	
2	1	第51回 横浜市幼稚園教育研究大会全大会 参加	パシフィコ横浜
	5	講師派遣 かながわコミュニティカレッジ連携講座 家庭教育アドバイザー 松本美佳	かながわ 県民活動サポートセンター
	8	家庭教育師・家庭教育アドバイザー交流会 参加	東京神田アメックスビル
	12	講師派遣 かながわコミュニティカレッジ連携講座 家庭教育アドバイザー 二川早苗	かながわ 県民活動サポートセンター
3	2	子ども・子育て支援新制度フォーラムin横浜 参加	横浜市開講記念会館講堂

★別途、定例理事会、並びに 各委員会会議が、随時行われました。

活動報告①

～八洲学園公開講座～

2013年10月～12月



青山 利江
家庭教育アドバイザー

「ジェンダーと子育てと介護」の題で、11月9日(土曜日)・11月16日(土曜日)の2回、無事に講師を務めることが出来ました。家庭教育支援協会に入会し、何度か講師を務めさせて頂き、その度に、資料の作成方法や話し方の工夫などは、経験に勝るものはないと実感しています。本当に勉強になります。子育てでも経験したことは、自分の実になると考えております。昨今、子育ての孤立感や仕事と生活の調和(ワークライフバランス)等の言葉を聞くようになりましたが、平成24年に内閣府で(ワークライフバランス)の調査で言葉を聞いたことがある人は5割、内容も知っている人の割合は約2割にとどまっており十分に知られていないことがわかります。

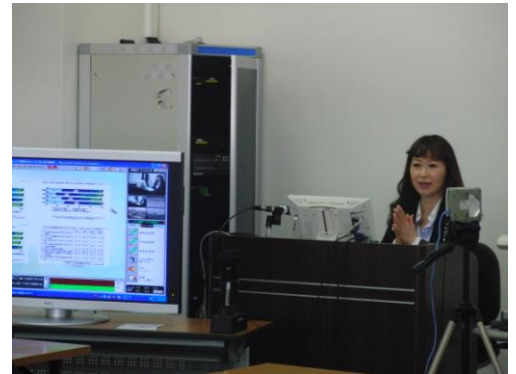
家庭の問題が社会問題になっていくことが多く、家庭のあり方、親のあり方なども問われるようになり、家庭の大切さを実感しています。

家庭教育支援協会での素晴らしい仲間や活動を通してのひととの繋がりを糧に日々活動して学んで参ります。家庭教育支援協会を通しての講師派遣のご尽力に感謝致します。

11月30日と12月7日、シリーズテーマ『まだ子育てを学んでいないのですか？子育ての基本中の基本「信頼関係の構築」と「自己肯定感の育て方」のコツを掴んで、2ランク上の子育てを始めましょう』として、講座を担当致しました。

あいにく超大型台風の到来により、延期開催となってしまいました。多くの方にご参加頂くことができここに感謝申し上げます。本講座終了後のアンケートでは、9割の方に「子育てを学んで行う必要性」「自己肯定感育成」「親子の信頼関係構築」のポイント、並びに「活かし方」への理解が深まったとお答え頂きました。

最後に、受講者様アンケートのご紹介をもって、私からの公開講座の報告とさせていただきます。S様「全体のお話の中で、自己肯定感の形成が、子供の成長や生き方を左右する大切なポイントであり、その自己肯定感の形成には「親の態度と言葉」がとても重要な要素であることが、とても印象に残りました。」A様「子供と接する際は、講座で教えていただいた7つの言葉を実践するように心がけます。」T様「講座の中の自己肯定感を知るテストでは、自分と娘の結果も明白であり。驚きましたが納得のいくものでした。」



八木 由紀
家庭教育アドバイザー・親力アップ静岡代表



「子どもへの上手な寄り添い方」をシリーズテーマに掲げ、10月30日に「子どものやる気を育てるコツ」、11月30日に「伸びる子どもに育てるコツ」と題し、講座を担当致しました。

直接会場へお越し下さった方、インターネットでライブ配信を受講された方、オンデマンドで録画配信を受講された方など様々でした。

今回は、「やる気」について、「子どもを伸ばす」ことに焦点を絞りました。子育ては一朝一夕でできるものではありませんし、親自身が子どもの育て方を学びながら行うものである、という私の持論のもと、当日は、ワークを交え、その日から使えるアプローチ法をお伝えしました。10月に受講して下さった方が、翌月の受講時に「先月のワークをさっそく子どもに試してみたら、とてもやる気になってくれて、嬉しかったです。即効性があるんですね」と仰って下さったことが、私の今後の励みに繋がっています。協会会員の皆さまも是非、ご自身のスキルを生かすためにも、講師として登壇してみたいかがでしょうか、自分自身が成長できます。

活動報告② かながわコミュニティカレッジ 2014年1月～2月

年明け最初の活動は、「かながわコミュニティカレッジ連携講座」の一環として、神奈川県の後援による「家庭教育支援講座」の開催でした。

毎年、神奈川県「県のたより」に講座案内が掲載され、広く県民の皆さまからの参加を募ります。今年は、当家庭教育支援協会は、1月から2月にかけて4回講座を開催致し、延べ27名の方々がご参加下さいました。第2回目のアンケートには、次のようなご感想を頂きました。「講師の方の話もさることながら、グループでの話し合いの中で、忘れていたことなど、気づかされることが多々ありました。(中略)幸せに過ごせていない子どもたちへの切なさも感じました。」

来年も講座を開催予定です。是非お出かけください。



かながわコミュニティカレッジ連携講座 1月22日「母さんお肩をたたきましょう」

岩田一夫

日本セラピスト育成協会統括講師



人間も生き物の一つであり、自然の恵みで生きている。生かされている。自然のなかに人間が生きていくヒントがある。生きるにはそのヒントを活用すればよい。しかし、生かされているからといって、自然には人間を保護する義務はない。人間も自然の一員であるから、「人間には人間を保護する義務はない」ともいえよう。うまくいっている時は良いが、一旦人間が「自然」に帰ると、換言すれば、本性を現すと、人間や人間関係は怖い。その自然のなかで生きるのだから、生きる術

をみつけだすのは容易ではなく、長い人生を無事に通過するのは並大抵ではない。そこで、独りで生きるのではなく他の人と共同して生きることが大切。共同の最小単位は家族。なかでも母と子のコミュニケーションがそのスタートである。子を産み育てる過程で、母は子を支え、子は母の生きる喜びとなる。互いにセラピーをし合っているのだ。それが、「母は子のセラピスト、子は母のセラピスト」という題をつけた理由である。自分も他の人も共に健康に生き、そして、生きながらえるように、その術のひとつとして今回の講座の講師を務めた。参加者の皆様の役に立てたであろうか？

活動報告③ ～第51回横浜市幼稚園教育研究大会全大会～ 2月1日

パシフィコ横浜(国立大ホール)にて開催された大会に、当協会からは二川理事長をはじめ、5名が参加した。

全体会では、平成27年4月に本格実施される「子ども・子育て新制度」を子どもの視点から問い直す主旨で、渡辺久子氏(慶應義塾大学医学部小児科専任講師)、汐見稔幸氏(白梅学園大学学長)など専門家の方々から幅広く子育ての状況や課題について伺うことができた。その中で特に印象に残ったものは、渡辺先生による「カイロスの時間」の話である。「カイロスの時間」とは、「ワクワクするような、主体的で、自由な時間」すなわち「遊びの時間」のこと。この「カイロスの時間」は0歳～3歳位の子どものに必要な時間であり、それを十分持てたか、持てなかったかでその後の人生は2分されるそうだ。乳幼児期の子どもは遊びの中で、考え、行動し、失敗し、そしてまた前に進む力を養うからだ。3歳までの『カイロスの時間』のやり直しが思春期(10歳～15歳頃)である。この時期に、再び「自分が主人公で、ワクワクするような自由な時間」を持つことが、人生において何よりも大切なことと話された。

塾か習い事で自分の時間を持ってない現代の子どもたち。人生という長い道のりの中で、たった数年の「子ども時代」を遊びきる大切さを、改めて感じさせられた。



(家庭教育アドバイザー・中島佳世)

活動報告④ ～家庭教育師・家庭教育アドバイザー交流会～ 2月8日



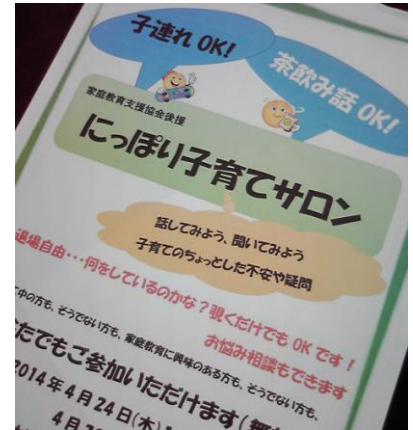
東京が23年ぶりの豪雪に見舞われた日に、交流会は開かれました。交通機関も乱れ、開催時間も短縮しての急ぎ足の交流会でした。1年に1度ということもあり、全国各地から悪天候の中、およそ30名あまりの方々に参加し、家庭教育学会、東京家庭教育研究所といった団体をはじめ、進学アドバイザーや保育士など個人の方々の活動をも垣間見ることができました。当協会からは、木村孝子理事が活動報告を致しました。今年、交流会へ参加できなかった皆さま、来年はぜひ一緒にしましょう。お待ち申し上げます。

今後の活動予定

初の試みです。「にっぽり子育てサロン」と題し、井戸端会議的なカフェサロンを2回に亘って開催します。どなたも無料！

お茶を飲みながら、四方山話をしませんか？リラックスするため、ストレス発散のため、子育ての悩みを聞いてもらうため、或いは、仲間を増やしたい、募りたい、など目的は何でもOKです。

日 時 ◆第1回目…4月24日(木)14:15～17:45
◆第2回目…4月30日(水)11:45～13:14
場 所…ホテルラングウッド5階 第2会議室
(東京 日暮里 JR山手線日暮里駅下車徒歩1分)



事前のお申し込みは不要です。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

自己紹介

**家庭教育支援協会に所属する会員の皆さまを、毎号ご紹介しています。
家庭教育への思い、活動の様子、今後の抱負などそれぞれ思い思いに語っていただきます！**

家庭教育師・家庭教育アドバイザー 羽柴 志保
愛知県豊田市在住

「ろう者としての家庭教育アドバイザー」

先月末、息子が聾学校高等部専攻科を修了しました。これで乳幼児教育相談から通っていた聾学校生活が終わりました。母親として2人の子供と共に頑張った23年間、本当に終わったなあとと思うと複雑な気持ちです。

今思えばいろいろありました。自分がろう者で、母親になってから気づくことがたくさんあり、聾学校の教育に疑問を持ち、自分の信念を貫いてきたように思います。ろう者として、ろう児を持った親御さん、聞こえる子供を持ったろう者の親御さんの相談がより深くできればいいなと思って、この八洲学園大学をインターネットで見つけ、第一期生として入学しました。本当にいろいろためになることがたくさんあり、世の中の知らないことも勉強になりました。

娘が高等部の時、強度のストレスで解離性障害になりました。学校の名前、自分の名前を挙げたいばかりか生徒に無理やり大学進学を勧め、無理な課題を与える…。当時の高等部主事が私に「お前たち夫婦には育てられないからおばあさんに預けたら？」と言うのです。これが先生の言葉？？もう信用できなくて、とにかく娘の気持ちを受け入れ、メンタルクリニックにも通い、保健室の先生にお世話になりながら徐々に治っていく娘を何があっても守るという気持ちを持ち続けました。娘はお世話になった保健室の先生を尊敬し、自分も保健室の先生になると決心し、養護教諭の資格を取得しました。今は一児の母になりましたが、これが娘の人生だと思っています。

仕事としては家庭教育アドバイザーを活かしておりませんが、ボランティアとして、相談はいつもしており、アドバイスとか一緒に考えたりしながらやっています。



「自然療法親と家庭教育で深めるホームケアの普及活動」

1997年より、夫の営む自然療法治療室松本鍼灸接骨院の中で、アロマ、ハーブ、フラワーエッセンスなどさまざまな自然療法を取り入れ、セラピストとして活動する一方で、自然療法を取り入れたホームケアの充実と育児と生活の家庭教育のQOLの向上のためのスクールとして、「ナチュラルセラピースクール M's touch」を主宰し講師として活動しています。

特に自然療法と家庭教育を取り入れて独自に体系作った「チャイルドケア」は、育児&育母講座として日本アロマコーディネーター協会では通信講座を開講し、「チャイルドケアコーディネーター」、「チャイルドケアインストラクター」等資格導入制度を取り入れ、学習の向上と普及活動に力を入れています。

また、「チャイルドケア」の【チャイルド】は、すべての命の総称と考え「命のケア」を考える講座として、2012年より八洲学園大学の公開講座で幅広い内容の講座を開講しています。今春5月からは八洲学園大学の公開講座でも、チャイルドケアの資格取得につながる「チャイルドケア eラーニング講座」の開講が決定しています。(ご参照ください：<http://www.yashima.ac.jp/univ/extension/course/2014/01/e.html>)

私の中では、家庭の中の「ケア」を考えることがチャイルドケアであり家庭教育です。「家庭」という枠の中でさまざまな可能性を見出していく活動をしていきたいと思っています。プライベートでは、社会人の娘と大学生の息子を持つ母として大人になった子どもとの親子関係について考える機会を与えてもらっています。

著書「ママや癒すチャイルドケア」「わたしと子どもと暮らしのレシピ」/ プラス出版

自然療法治療室松本鍼灸接骨院/ ナチュラルセラピースクール M's touch <http://mstouchnet/>

JAA 日本アロマコーディネーター協会 チャイルドケア本部 <http://www.childcare-jp.com/>

※「チャイルドケア」とは松本美佳が提案する 自然療法で育児&育母を楽しみながら、子育て、生活のQOLを向上させることが目的の学習のことを指します。またチャイルドのチャイルドは、すべての命の総称とし、命のケアとして考えていくものです。

八洲学園大学 公開講座 講師を募集します！

八洲学園大学の公開講座では、様々な講座を開催しています。昨年秋には、3名の協会会員が講師として開講しました。

皆さまも是非、講師として一歩踏み出してみませんか？

◆お問い合わせ・お申し込み

家庭教育支援協会 事務局

HP address : <http://kateikyouiku.com/>

mail address : jimu@kateikyouiku.com

ホームページ・Facebook 是非ご覧ください！

本協会のHPやFacebookをご覧になったことはございますか？協会のお知らせや活動について、随時記載しています。

また、会員の皆さまによる「コラム」も隔週で更新中です。ぜひご覧下さい。

そしてFBには是非👍「いいね」を！

<https://www.facebook.com/kateikyouiku>

皆さんで、協会を盛り立てましょう。

～編集後記～

会報誌の作成を何度か手がけさせて頂いている。今回は、視力と体力が落ちたのか、原稿が見にくく、夜更かしも辛く、出来上がるまでの時間がとても長かった。やっぱり年齢には勝てないな、と思った次第。でも、皆さまから頂いた原稿を読んでいるうちに、気力だけはどんどんアップ！仲間がいるというのは、やっぱり励みになる。協会会員の皆様に今日も感謝！明日への活力をありがとうございます。(八木由紀)

家庭教育支援協会 ★編集部(コラム・会報委員会) adviseryuki@yahoo.co.jp